



教育に新聞を

# 2019年度 大分県N I E 実践報告書

# 目 次

## 《実践報告》

自ら学ぶ力を育む授業づくり ～新聞を身近に感じる活動作り～

中津市立山口小学校 教諭 中嶋 瑞貴

全校で取り組む楽しいN I E

大分市立鶴崎小学校 教諭 高橋 園恵

継続的な新聞活用による確かな学力の定着 ～N I Eという「窓」を全校で～

竹田市立緑ヶ丘中学校 教諭 佐藤 美登里

新聞を身近なものに

日田市立戸山中学校 教諭 笹倉 直子

自ら学び、みんなで学び、社会とつながるN I E

大分市立戸次中学校 教諭 油布 和也

それぞれの立場での取り組み

大分県立別府翔青高等学校 教諭 坂口 智子

新聞から社会を学ぶ 人格設計 ～社会で生きていくための表現力向上を目指して～

別府溝部学園高等学校 教諭 矢野 慎治

新聞を通して考える 社会と自分

～新聞を進路目標設定（進路学習）に生かす方法を探る・2年目～

大分県立大分舞鶴高等学校 教諭 小坂 史香

## 《2019年度大分県N I E実践指定校と活動》

## 《大分県N I Eセミナーと実践研究会》

## 《大分県N I E推進協議会会則》

## 《2019年度大分県N I E推進協議会役員等》

【おことわり】 この報告書に記載されている所属・肩書は、2019年度当時のものです。

# 自ら学ぶ力を育む授業づくり

## ～新聞を身近に感じる活動作り～

中津市立山口小学校 教諭 中嶋 瑞貴

### 1. はじめに

平成 28 年度より N I E 実践指定校として、本校では子どもが自ら学ぶ力（問題解決・情報活用能力など）をつけるためのツールの一つとして、新聞を活用している。

本年度も、日常のさまざまな授業の中で、そして週末の課題や図書館でのイベントで新聞を使った取り組みを行った。

1 年間の N I E の実践について報告する。

### 2. 実践の内容

#### (1) 教科・総合的な学習の時間

##### ①国語

##### ○「**おにごっこ**」(2年)

- ・新聞記事の中から、「人の動きを表すことば」(動詞)を見つける活動をした。グループで探させることで意欲的に活動していた。

##### ○「**アップとルーズで伝える**」(4年)

- ・新聞に載っているアップとルーズの写真を探す活動を行った。アップにすると表情が分かる、ルーズにすると周りの様子が分かるという教科書の説明文を学習する際、実際に新聞ではアップとルーズの写真がどのような場面で使われているかなどを調べた。

##### ○「**想像力のスイッチを入れよう**」(5年)

- ・メディアが伝えるニュースや記事について、事実のほかにメディア側の印象や推測が含まれていることを知り、情報をうのみに

しないために自分たちがどのような考え方をして情報を受け取っていけばよいかを学んだ。その後、メディア側はどのような工夫をしていけばよいか、2つの新聞社の同じ記事を見て、どちらが自分にとって分かりやすいか考えた。

オーストラリアの森林火災で多くのコアラが被害を受けているという内容の記事について、大分合同新聞と、日本経済新聞を見比べた。

記事の文章は同じであるが、「コアラが抱かれている写真よりも水を飲ませてもらっている写真の方が、何が起きたか分かりやすい」、「内容は同じだけれど見出しが少し違う。どれだけの損害が出たのか、その金額が大きく出ていたほうが分かりやすい」、「いや、シンプルなほうがいい」など、読み手により伝わりやすくするため、新聞が見出しや写真についても工夫する必要があるという感想を持つことができた。

##### ○「**切り抜き新聞コンクールに挑戦**」(3年)

- ・この活動をすることで新聞に興味を持ち、楽しんで活動をすることができていた。  
切り抜き新聞作成後、新聞に興味を持ち、図書館の新聞に目を通していている子もいた。





※3年切り抜き新聞

## ②算数

### ○「大きな数」(1年)

- ・新聞紙の1ページの中から、数字で書かれた20～120の数を見つける活動を行った。

### ○「表とグラフ」(3年)

- ・導入で、新聞に載っている棒グラフを紹介した。学習を終えてから、自分で新聞から棒グラフを見つける活動も行い、棒グラフと生活を結びつけることができた。

### ○「小数」(3年)

- ・新聞から小数を探す活動を行った。小数が生活のどんな場面で使われているのかに気づくことができた。

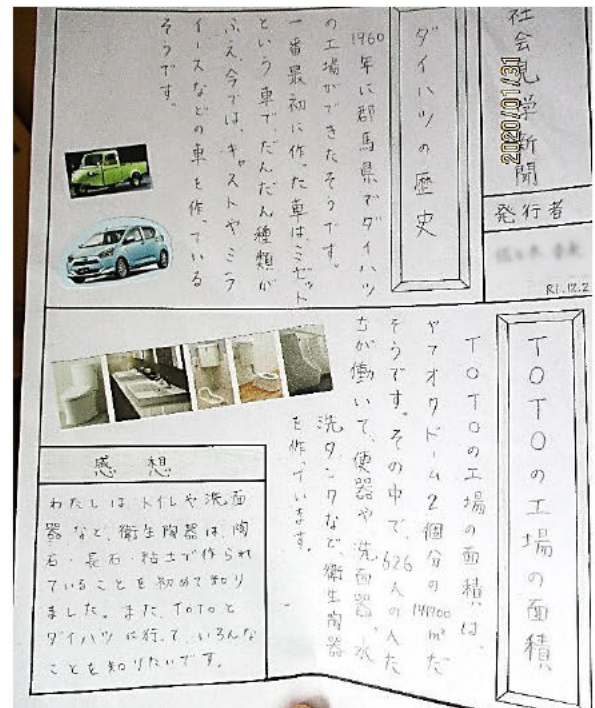
## ③社会

### ○「社会科見学新聞を作ろう」(5年)

- ・社会科見学で、ダイハツ九州と、TOTOに行き分かったことや感想を新聞にまとめた。

実際に見聞きして学んだ中で一番印象に残ったことを二つの記事にして新聞にまとめた。ダイハツの車の種類をパンフレットから写真を切り取って貼ってまとめたり、TOTOのトイレのできるまでをイラスト入りでまとめたりした。見出しも読

み手が分かりやすいように大きく書いたり、色をつけたりするなどの工夫をした。



※社会科見学新聞(5年)

### ○「日本で起きる災害について調べよう」(5年)

- ・日本で起きる災害を調べる活動をする際に、最近起きた鹿児島県口永良部島での噴火についての記事を紹介した。

## ④図画工作

### ○「紙版画」(1年)

- ・カラータック紙版画をするときに、汚れ防止と水を吸い取るために新聞を利用した。

### ○「ワニ作り」(4年)

- ・新聞を使ってワニを作る活動を行った。新聞紙の、折ったり丸めたりすることができる特性を生かし、何度もやり直ししながら、迫力ある作品を作ることが出来た。





※ワニ作り（4年）

○「たこ作り」（6年）

- ・算数で学習した比の応用で、たこ作りをした。その時の型紙に新聞を利用した。

⑤体育

○「何人乗れるかな」（1年）

- ・新聞紙1枚の上に何人が乗れるかを試す活動を行った。

○「ボールルー」（2・3年）

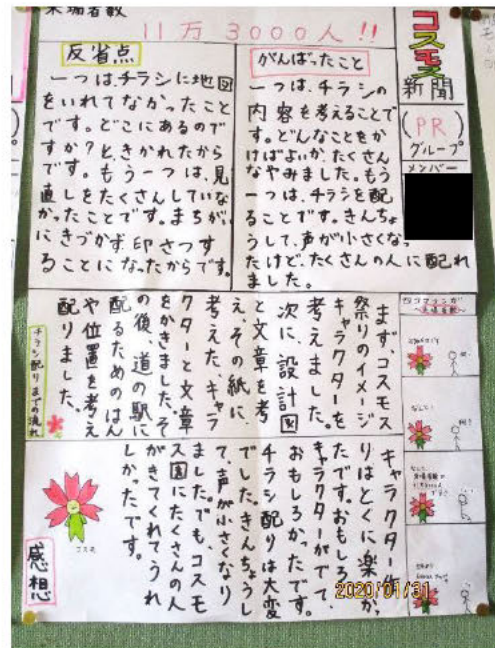
- ・新聞の上にボールをのせて、ペアでバランスを取りながら運ぶ運動をした。新聞紙が破れないためには、どうしたらいいかペアで考えて運ぶ姿が見られた。破れた時は、新しい新聞を使えるため、試行錯誤もでき、有効であった。

⑥総合的な学習の時間

○「コスモス祭り新聞を作って自分たちの取り組みを全校に伝えよう」（5年）

- ・総合的な学習の時間に、地域の祭りであるコスモス祭りに参加し、入場者数を増やすために、祭りのステージ画作りやパンフレット作り、スタンプラリーなどの取り組みを行った。活動のグループごとに自分たちの取り組みやその成果を大きな新聞にま

とめ、踊り場に掲示した。新聞には、自分たちが活動して大変だったことや活動してみて良かったこと、活動の手順や反省点などをまとめた。スタンプラリーのグループは、実際に自分たちの作ったスタンプを押したり、ステージ画作りのグループは、自分たちの描いたステージ画の縮小版を新聞の中に描いたりした。また、活動の手順を新聞の中で4コマ漫画に描いたグループもあった。



※コスモス祭り新聞（5年）

○「いのちのバトンをつなごうプロジェクト」（6年）

- ・導入で、新聞を用いて「南海トラフの地震」が及ぼす被害状況を子どもたちに知らせ、年間の防災学習の意欲づけにした。

(2) 図書館司書の取り組み

○「全校・図書館イベント スクラップ大会in山口小図書館」

- ・新聞週間の期間中に行う取り組みとして、初めて本大会を企画した。これは、すごい人を見つけてA4の紙にスクラップする活動である。参加者には、図書委員・司書

の手作りしおりをプレゼントし、作品を図書館内に掲示した。また、図書集会で教頭が入賞者を表彰した。



※スクラップ大会入賞作品

○中休みや昼休みに、児童が大分合同新聞社作成などのN I Eワークシートにチャレンジする。(希望者)

- ・内容：大分合同新聞のN I Eワークシート  
2種と自作のワークシート1種

周知方法：図書館内掲示

参加賞：手作りのしおり

○新聞コーナーの設置と掲示

- ・内容：児童でも理解できるように図解したものや、クイズなどを掲示した。



(3) 週末課題

○4～6年生で毎週末実施の課題

- ・読売ワークシートを活用し、また、朝日小学生新聞天声こども語の書き写し、記事より意見文、感想文、要約や設問による抜き出しなどを内容としている。

※担当教員が作成

○3年の課題

- ・読売ワークシートを活用している。子どもたちの興味がある内容や、学習している内容と関係する記事を担任が選ぶことで、子どもたちが、意欲的に取り組むことができた。

※担任が作成

3. おわりに

本年度は、日常の授業の導入や活動のツールとして新聞を活用したり、実際に新聞を作ってみたりするという活動を授業で多く行った。

授業の他にも、新聞を用いたイベントを開催したり、週末に新聞を読んだりする問題を出すなど、新聞を取っていない家庭の子、普段読まない子でも新聞を身近に感じることができるよう環境づくりをしてきた。

しかし、毎年マンネリ化しつつある。授業者が常にアンテナを張り、必要な情報を集めて準備する必要がある。また、学校司書との連携も大切である。

ネット化が進み、新聞離れが指摘される現在でも、新聞ならではの良さを子どもたちが自然と感じることができるよう工夫をこれからも続けていきたいと思う。



# 全校で取り組む楽しいN I E

大分市立鶴崎小学校 教諭 高橋 園恵

## 1. はじめに

N I E 研究テーマを「全校で取り組む楽しいN I E」と設定し、「新聞を身近に感じ、私たちが暮らしている世の中に関心を持ち、主体的に考え、表現できる子ども」を育てることを目指して、発達段階に合わせた全教科・領域での日常的な新聞活用の実践を重ねてきた。

全国大会後も継続できる日常的な取り組みの在り方を模索してきたが、昨年度から「ふるさとを愛し、夢に向かって共に学ぶ鶴崎っ子の育成」を学校教育目標に掲げ、全学年でふるさと学習を実施。新聞から地域の話を見つけたり、調べたことを新聞にまとめたりする活動を行い、校内研究の重点である思考力・表現力の育成のために、書く活動において新聞を活用した実践を発展させていこうと、全職員で実践に取り組んだ。

## 2. 本年度の実践について

### (1) 環境整備

#### ①新聞閲覧コーナーの整備(1階昇降口)

- ・今日の新聞の1面掲示では、着目させたい点にコメントをつけ目を引くよう工夫した。



#### ②N I E コーナーの充実(3階渡り廊下)

- ・常設の「新聞から季節を見つけよう」では、県内の季節を感じる記事を随時紹介した。



- ・特設の「新聞記事の紹介」では、「平成から令和へ」「令和スタート」「ラグビーワールドカップ」「2019年をふりかえろう」などのテーマで、児童が世の中の出来事に興味を持つように記事を集めて掲示した。
- ・「GODOジュニア」の掲示では、「吹き出しバトル」の入賞者を紹介、参加意欲を高める呼び掛けコメント付きで掲示した。
- ・当日以外の新聞の保管棚のルールを明確にし、誰でも活用しやすいようにした。
- ・朝日小学生新聞コーナーは図書室に設置しているが、手に取る児童が少ないので、興味を持ちそうな紙面を3階のコーナーに置き、読むことができるようにした。

### ③各学年のNIEコーナーの充実

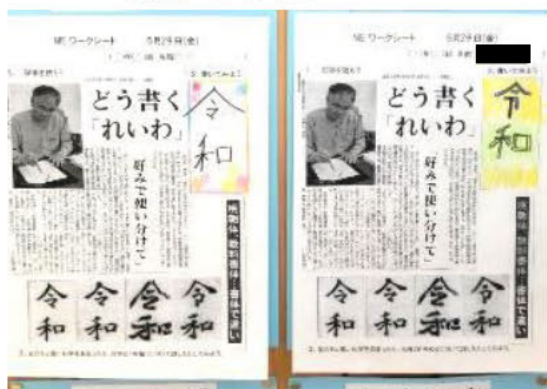
- ・児童が作った新聞やNIEワークシートの掲示について、内容や更新する時期を各学年に適時呼び掛け、無理のない範囲で、いつも最新で整った掲示物となるようにした。

- ④本校が取り上げられた新聞記事や鶴崎が紹介された新聞記事を集めて校長室前や階段踊り場の「ふるさと学習」のコーナーに掲示し、保護者や来校者に「新聞の学校」であることをアピールする場とした。

## (2)新聞を活用した取り組み・新聞づくり

### ①朝のNIEタイム(毎週金曜日の朝学習)

- ・低・中学年：新聞紙に親しむ活動  
NIEワークシート、新聞切り抜き
- ・高学年：NIEワークシート、コラム視写、  
新聞スクラップ



3～6年 『令和』を書こう

※大分合同新聞販売店のご協力による新聞提供。  
子どもたちが当日の新聞と接することができる最も大切な時間である。

### ②「GODOジュニア」の活用

- ・算数での活用に、グラフや表のある記事を用いた。
- ・全校で「吹き出しバトル」に挑戦した。児童は楽しんで参加している。

### ③「校内切り抜き新聞グランプリ」の実施

- ・全校で2学期に実施。校内審査し、全校朝会で表彰。
- ・日曜の保護者参観日に合わせて校内に全作品を掲示。保護者に取り組みを周知する良い機会となった。児童にとっては、全校の作品の掲示は、作品作りのヒントを自然に学び、次作品への創作意欲につながっている。

- ④大分合同新聞社主催「おおい切り抜き新聞グランプリ」に全校で取り組んだ。校内での取り組みからコツをつかんだ児童たちは、楽しみながら取り組んだ。学年が上がるにつれて内容が充実していることや目の付けどころの良さに、私たちが感心させられ、子どもたちの力を伸ばす機会を与え続けることの大切さを実感した。

### ⑤掲示物に新聞活用

- ・新聞を使ったちぎり絵で、全校で運動会スローガン作成。
- ・児童会のめあてや、教室掲示での新聞活用や廊下の掲示など、「新聞でできることはないかな」と、児童、先生ともに、楽しみながら取り入



れようとしている。それも、身近にいつも新聞がある環境のお陰である。

### ⑥大分合同新聞印刷センター社会見学(5年)

- ⑦昨年度の5年生が取り組んだ大分合同新聞「飛び出せ学校」が発行され、地域の方々に大変喜んでいただいた。

- ⑧「いっしょに読もう！新聞コンクール」への6年生の参加(9月)



⑨県学校新聞コンクールへの全学年参加。3点入賞。

⑩『N I E子ども会議』への参加

- ・表現することの楽しさを新聞作りで得たこととして語ってくれた代表児童。新聞を読んだり作ったりする活動の中で、物の見方・考え方を広げたり深めたりした。子どもそれぞれの新聞との関わり方があることと、学校が新聞に出合う機会を保障することの大切さ・意義を実感した。

### (3)各学年でのN I E授業の実践

1年 見学遠足のまとめ新聞づくり

図工「やぶいたかみからうまれたよ」

2年 国語「連休の思い出 はがき新聞」

「カタカナで書く言葉」

生活「校区たんけん はがき新聞」

図工「新聞で変身」「さつまいも作り」

3年 総合「鶴崎のじまん新聞」

国語「お薦めの本 紹介新聞」

4年 国語「新聞を作ろう」

「アップとルーズで伝える」→新聞からアップとルーズの写真を探し、その使い分けの意義について考えさせた。

総合「ウナギの放流体験」「大野川新聞」

社会「社会見学 まとめ壁新聞」

「大分県の市町村」→記事からG O D Oジュニアワークシート地図への色塗り。

5年 国語「新聞の書き方を知ろう」

社会「学んだことのまとめ新聞」

総合「米作り まとめ新聞」



6年 総合「修学旅行新聞」

社会「茶道体験新聞」→新聞を講師へのお礼として送る

算数「およその面積」

国語「この絵 私はこう見る」

※熊本から先生がN I Eの視察に来校された週に、一人一実践公開授業を全クラス行うことができた。

### ○私の実践

- ・4年国語「カット見出しを考えよう」→記事にぴったりの見出しをクイズ的に考えた。
- ・4年特活「新流行語大賞」→新流行語大賞ノミネートの言葉を知っているか聞いたり、大賞を予想したりする。「あなたの今年の流行語は？」を書いてもらおうと、子どもたちの流行が分かり、児童理解にもつながる。
- ・3・4年書写「今年の一文字」→新聞記事から、今年の一文字について考えたり、書いたりする。自分にとっての「今年の一文字」を決め、毛筆で書き、理由とともに発表する。児童同士の相互理解にもなる。子どもは「自分が書きたい・好きな言葉」を筆で書くことを大変喜んだ。



### ○4年社会

「大分県の市町村を調べて紹介しよう」→2人組で自分の担当する市町村の記事を集めて特徴を捉え、もっと知りたいことは市のHP等を見て調べてまとめ、オリジナルのゆるキャラも考案。新聞記事から県内の市町村に興味を持つことができた。

### 3. まとめ

(1) 児童へのアンケートの実施とその結果について

3学期、児童にNIEに関するアンケートを行った。【学校での取り組みについて】は全学年、【新聞を活用した取り組みを通して】は4～6年の児童を対象に行った。

#### 【学校での取り組みについて】

①「NIEコーナー」や「新聞閲覧コーナー」、「今日の新聞の1面」で新聞や掲示物などを読むことがありますか。(単位は%)

年度	よくある	たまにある	あまりない	ない
2019	45△	41	7	7

②朝のNIEタイムの取り組みは楽しいですか。

年度	とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
2019	49△	41	7	3

③授業での新聞を使った活動や新聞作りは楽しいですか。

年度	とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
2019	53	36	7	4

#### 【新聞を活用した取り組みを通して】

①新聞を身近に感じるようになりましたか。

年度	とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	思わない
2019	16	58	17	8

②世の中のことに興味を持つようになりましたか。

年度	とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	思わない
2019	22	47	27▼	4

③自分の考えを持ち、表現するようになりましたか。

年度	とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	思わない
2019	33	30▼	30▼	7

※前年比で10以上の差があるもの △上▼下

### (2) アンケート結果からの考察

NIEタイムも定着し、多くの子どもたちが楽しく取り組んでいるのが分かる。また、新聞を活用した授業も多くの子どもたちが楽しいと感じることができている。特に「記事や写真を集め、レイアウトを考えること」「見出しを付けることや『〇〇新聞』のタイトル決めがワクワクする」「世界に一つだけの手作りだから」と、「切り抜き新聞が楽しい」という意見が多かった。

「記事からいろいろなことを知ることができる」と、子どもたちにとって新聞が情報を得る手段の一つとして意義を感じてはいるが、積極的に自ら情報を活用しようとする姿勢や研究のねらいである表現への意欲に課題が見られた。

### (3) 成果と課題

本校の児童は、整った環境のおかげで新聞に親しみを持ち、新聞を生活の一部に気軽に取り入れる子へと育っている。また、学んだことを新聞にまとめたり、興味・関心のある記事に対して感想を書いたり、自分の考えを友だちと交流したりするという新聞を媒体とした多様な言語活動を通して、「書く」という作業に抵抗感を持たず、自分の考えを進んで表現しようとする姿は、これまでの取り組みの積み重ねによる大きな成果である。

今後は、新聞に親しむ楽しい活動を継続するとともに、新聞で学んだことが自分の生活とつながり、「役に立った」「表現して良かった」と実感させることができるよう、実践を続けていきたい。

学校の中でどう取り組みをつなげていくかも大きな課題である。新しい学びの時代に「新聞はぴったりの教材だ」と新聞の可能性を伝え、「楽しみながら力がつく」「いつでも・どこでも・だれでもできるNIE」を目指したい。

# 継続的な新聞活用による確かな学力の定着

～NIEという「窓」を全校で～

竹田市立緑ヶ丘中学校 教諭 佐藤美登里

## 1. はじめに

本校は『自主・協働 そして自立』する生徒の育成」という学校教育目標を掲げている。その目標達成のための取り組みの一つとしてNIEの推進を明示している。昨年度までの5年間は、「DO緑（どりょく）タイム」と呼ぶ新聞コラムを読み解く学習にほぼ毎日、全校生徒と全教職員で取り組み、確かな成果を上げてきた。

本年度は、生徒の実態を踏まえて、その形を変え、他の手法も試みることになった。これを好機として、NIEの新たな方策や可能性を探り、効果的かつ持続的な取り組みを全教職員の意思統一の下、進めてきた。

## 2. 実践内容

### (1) 通年の窓「朝NIE(朝にいい!)」写真④

#### ① 目的

短く秀逸な文章である新聞コラムを読み、思考を深め、考えたことを表現する学習を継続させることによって、読解力や判断力、表現力を身につけさせる。

#### ② 対象

2年生・3年生

#### ③ 方法

・月曜日～木曜日、毎日実施。(金曜日は生徒集会)。朝8時から(1月以降は校時表変更により、15時35分からの20分間。同時に「読得(とくとく)タイム!」に改称。)の20分間の取り組み。大きな行事やテストの当日だけは休止。

・ワークシートは複数紙の新聞コラムの中から、国語科が手作りする。適宜、コラム以外の新聞記事も利用する。

・漢字の読みや辞書を使つての意味調べ、

3色ボールペンを使った傍線引き、要約、題名つけ、意見文の短作文、書き写し等、これまでのやり方を継続する。監督と評価は2・3年部の全教職員と国語科が行う。

### (2) 国語科の新たな「窓」

#### ① 3年「新聞の新聞を作ろう!」④

・6月に3年生の授業で実施。光村図書の教科書教材「魅力的な紙面を作ろう」は修学旅行記作成を手立てとしているが、生徒は修学旅行を前年度に済ませていて実態に合わない。そこで教科書本文も扱った上で、指導目標にも合致するように学習活動を設定して進めた。

①「NIEアンケート」(全校生徒対象)の集約結果から「荻町で新聞は生き残れるか」についての考えを持ったり、新聞各紙の1面の構成要素を分析したりする。

②①により考えた、新聞に関わる疑問や気付きから学習課題の案を各自が持つ。

③班ごとに課題を設定する。

④班活動で課題解決の方策を練り、協働して大型壁新聞の形で完成させる。

・各班の設定した課題は「世界の新聞」「新聞はなぜ生まれた?」「新聞の1番」「新聞の未来」「新聞の文字数」というもの。それぞれ、悪戦苦闘しながら、笑顔で話し合いを重ね、大型壁新聞の形を整えていった。作成する中で生徒はさまざまなことを発見した。

・一連の授業の4時間目は竹田市教育研究会中学国語教育部会の提案授業の日でもあった。班ごとに集めた材料を使って下書き

したものを見合い、気付いたことを交流し、より良い仕上げをするために必要なことを、知識構成ジグソー法で展開した。参観した教師から、「全国学テでも新聞関連の問題が出た。今後は授業で丁寧に扱いたい」という声もあった。

## ②1年「持ち寄り新聞を作ろう！」㊦

・7月に光村図書の1年教科書教材「情報コラム 新聞の紙面構成の特徴を知る」の発展学習として設定。竹田市の取り組みであるT授業の一環に位置付け、本校と竹田南部中学校の1年生の合計40人と双方の国語教師2人で指導。

①教科書教材により、紙面構成の知識を学習。

②T授業の予告と班分け。持ち寄り新聞記事のテーマはくじ引きで決定。1週間の内に気になる新聞記事を切り抜くことを指示。

③T授業当日、持ち寄った新聞記事で班活動。各自が記事の内容や感想を紹介、班で質疑等の交流。その後、「切り抜き新聞」の台紙に貼る記事へのコメントを記入し、レイアウトや題字を決定し、完成。

・授業の様子は2019年8月3日付大分合同新聞で紹介され、生徒や保護者にも好評。生徒の感想にも嬉しい言葉が並んでいた。仕上げた作品は全て「おおいた切り抜き新聞グランプリ」に出品。

## ③全校「新聞出前授業」㊦

・全学年の教科書教材で新聞の知識を押さえたうえで実施。大分合同新聞の井上さんを講師にお迎えしての、新聞に関わる楽しくするための講話とワークショップ。縦割り3人班で切り抜き新聞を作成。その後、国語科の授業の中で1人1枚の切り抜き新聞を完成させ、文化祭やふるさと祭りに展

示した後、「おおいた切り抜き新聞グランプリ」に出品。

## ④1年「新聞でSDGs」㊦

・11月に教科書教材「流氷と私たちの暮らし」の発展学習として位置付け、朝日新聞社のワークシート「～新しいものさしで考える～新聞でSDGs」を活用。「SDGs」という語を全員が初めて知り、関連する新聞記事の多さに圧倒されていた。調べるうちに実に身近な課題であることや、既知の事項と関係することの多さに驚いていた。関連する新聞記事の量の多さで、問題意識がさらに高まった。調べて考えたことをシートにまとめ、翌月の環境学習の全校集会や授業で発表。

## ⑤3年「比べてみよう！米英仏の新聞」㊦

・1月実施。アメリカ、イギリス、フランスのそれぞれ著名な新聞を同じ日付でほぼ3日分、それぞれ複数紙を準備して使用。日本の新聞と比較しながら各紙の特徴や感想をまとめ、交流。英語の苦手な生徒は紙面構成や写真、イラストで楽しむことができた。また、日本関連の記事が少しずつ掲載されていることへの驚きもあり、世界のつながりの一コマを感じることで「窓」となった。

## (3) 道徳の「窓」㊦㊦

・道徳の授業でも新聞記事を活用。道徳の価値項目を伝えたり考えさせたりするのにも、新聞はまさに宝庫である。例えば、「あきらめない心」を考えさせる小惑星探査機「はやぶさ」を取り上げた教材での授業時、「はやぶさ」関連の新聞記事を使い、リアルタイムの出来事であることを実感させた。また、本校で毎年12月に実施する親子人権講演会では全盲



のご夫婦にご講演を依頼したこともあり、事前学習に、障がいを考える新聞記事を利用した。多角的かつ深く考えさせるためにも、事実を客観的に伝える新聞記事は実に有用。

#### (4) 全教職員による「NIEの窓」⑩⑪

- ・「良さは分かってもなかなか…」という教職員に気軽にNIEに関わってもらいたいと願い、職員会議で提案。それぞれの立場で生徒に読んでほしい新聞記事を切り抜いて大判のクリアポケットに入れるだけ。入れ替えは気が向いた時、各自の判断で。校内の随所、よく目につく所に掲示。現在、教科や領域で7ヶ所設置。
- ・校内研究でも新聞記事を活用。普段、紙媒体での情報収集から遠ざかりがちな教職員にも良い刺激。

#### (5) 「NIEコーナー」という「窓」⑫⑬

- ・毎日更新する「新聞立ち読み場」は生徒玄関、普通教室前廊下、踊り場等に常設。
- ・「NIE掲示板」に毎日更新する「1面読み比べ」の他、『朝NIE!』関連記事「竹田・荻のニュース」「高校受験生のページ」も常設。
- ・「つぶやきコーナー」を新設。生徒が読んで感じたことを自由に書き込む。本校の生徒が表彰された記事に驚いたり、一緒に喜んだり、笑顔と会話が行きかう温かい交流の場。

#### (6) 「特設コーナー」という多様な「窓」⑭⑮

- ・安全教育・防災教育に特化したコーナーは常設。関連した新聞記事の掲示だけでなく、生徒集会等での講話にも説得力のある材料として新聞そのものを活用。
- ・時期に合わせた特設コーナーを、内容に応じて設置。秋口にあえてタイトルを付けずに、ラグビーワールドカップ関連の新聞記事をそのままひたすら貼り出し。日本チームの活躍

で話題性が高まるにつれてラグビー関連記事の張り出しスペースが広がり続け、「ワンチームの壁」と命名。生徒のラグビーへの興味も広がり、昼休みにグラウンドで楕円球を追いかけ、スクラムを組む生徒と観る生徒が急増。

- ・1月に「阪神淡路大震災」コーナーを設置。当時の新聞のコピーや報道写真を展示。東日本大震災さえリアルタイムで知らない世代には特に説得力のある資料。過去の新聞が有用であることを再認識。
- ・特設コーナーで取り上げる話題への興味が生徒の中で、自然に広がっていく。話題により、目を引くレイアウトや材料の知恵を絞るので、コーナーのマンネリ化を防ぐことにもなる。

### 3. 成果と課題

- ・学期末や学年末の生徒アンケートで、読解力と表現力の向上について肯定的な回答をする生徒がそれぞれ96.3%、88.9%いる。しかも「かなりそう思う」と回答した生徒の割合が何れも6割近くいる。想定を大きく上回る結果であった。また、NIEによる視野の広がりについて肯定的な回答をする生徒が92.6%もいる。学年初めのアンケートでの数値が、時を追って良い数字へと伸び続ける。生徒の感性や技術の変容が何よりも嬉しい。
- ・小規模校ながら本年度も、作文で県の最優秀賞を獲得したのをはじめ、弁論、詩、短歌等のコンクールで数多くの入賞者が出たことも、成果の一つであり、生徒たちに大きな自信をつけさせることにもなった。
- ・実践指定校2年目となった本年度は、新聞コラムの読解以外の学習活動にも全教職員で取り組めたらと願い、提案を重ねた。校長はじめ、全教職員の理解と協力があり、実り多い実践がなされた。チームワークの良さにあらためて感謝している。これからも楽しみながら挑戦を続け、生徒と共に成長したい。



イ



ロ



ハ



ニ



ホ



ヘ



ト



チ



ヲ



リ



ル



カ



ク



ク



カ

# 新聞を身近なものに

日田市立戸山中学校 教諭 笹倉 直子

## 1. はじめに

本校は、本年度からNIE実践指定校として「社会の出来事を知り、お互いに学び合う」を目標とし、本年度は「新聞を身近なものにしよう」から取り組み始めている。

指定校を受けた大きなきっかけは、昨年度「おおいた切り抜き新聞グランプリ」に全員で応募したことであり、初めての試みであったが、記事を集め、レイアウトし、自分の思いを自由に書く等、楽しく取り組めたことである。新聞を読むことの楽しさをいつも根底に置きながら、いつも近くに新聞があるような学校生活を送れるように、この1年間は、さまざまな活動に取り組んできた。

## 2. 実践内容

### (1) 1学期の取り組み

#### ①出前授業～6月

「新聞について知る」

大分合同新聞の方を招いて、【メディアの特徴・新聞の構成・新聞が届くまで・新聞の読み方・記者の仕事について】などを話していただいた。普段何気なく目にしている新聞は、多くの情報の取捨選択、編集、印刷、配送などを経て届けられることを学び、メディアについての基本的な知識を知る機会となった。

(生徒の感想より)

・いつもはあまり新聞を読んでいません。テレビやネットニュースばかりだけれど、細かい内容はテレビよりも新聞の方が詳しいことも分かりました。地域のニュースなど、ネットには載っていないことがたくさんあることが分かりました。

- ・私の祖父は新聞の配達をしています。新聞が家に届くまでに、たくさんの人が関わっていることが分かりました。驚きました。
- ・新聞の構成を初めて知りました。今までは興味のあるところだけを読んでいましたが、今からは全体を見ていきたいと思いました。

①出前授業



#### ②新聞切り抜きシートを作ろう

自分が読んで興味を持った新聞記事を切り抜き、感想や意見を書くことに取り組んだ。何気なく見ている新聞記事を丁寧に読む最初のきっかけとなった。

また、スポーツの記事に偏りがちだったので、「興味のある記事」「元気の出る記事」「大分県内の記事」など、月によってテーマを変えていくと、興味・関心が多方面に広がったように感じられた。

②新聞切り抜きシート 1





## ②新聞切り抜きシート 2



### ③教科での新聞利用

国語で論説文「絶滅の意味」を学習した時に、理科担当の教員にお願いして、関連する新聞記事を理科室前に掲示した。新聞記事を活用することで、生徒の関心を高めるとともに、教材の内容が現実社会の課題であることを強く印象付けることができた。

### ③教科での新聞利用 (理科室掲示)



## (2) 2学期の取り組み

### ①朝の新聞タイム

1学期は、毎朝15分間の読書タイムを設定していたが、2学期から、「まずは全校で新聞を手にとることから始めよう」との趣旨で、月曜日を「新聞の日」と決め、全校で新聞を読む取り組みを始めた。

(生徒の感想より)

- ・毎日、新聞を読みたいです。その日の出来事や経済の様子や世界情勢などを知ることができてとても楽しいからです。
- ・私が一番好きなのはコラムです。いろいろな人の考えを知ることができてとても面白く感じました。
- ・新聞によって、取り上げているニュースに相違があることが面白いと思いました。
- ・今まで4コマ漫画ぐらいしか読んだことがなかったけれど、事件や出来事だけではなく、俳句や小説もあり、興味がわきました。

### ①朝の新聞タイム



### ②3分間スピーチ

朝または帰りの学活で新聞記事を紹介し、感想や意見を発表するコーナーを設定した。2, 3年生で取り組んだ。



(生徒の感想より)

- ・自分が興味を持った記事を紹介したり、友達の紹介する記事のことを聞いたりできてとても楽しいと思いました。私の気が付かなかったことを友達が発表すると驚いたり感動したりします。それが楽しいです。
- ・私の発表した記事のことを家族に話すことができます。

②3分間スピーチ



### ③バッグ制作

読む以外の新聞の活用を考え、卒業制作で保護者へ贈り物を入れる袋として、新聞バッグづくりに取り組んだ。カラー写真の紙面をうまく使い、世界で一つしかないバッグを楽しく制作できた。

③バッグ制作



### ④修学旅行新聞

2年生が修学旅行の思い出を新聞にし、文化祭で掲示した。

④修学旅行新聞



### ⑤切り抜き新聞グランプリ応募

昨年に続き全校で取り組んだ。

⑤切り抜き新聞作成



## ⑥職員研修

NIEアドバイザーの永松芳恵先生（津久見市）を講師にお迎えして、「NIEとは」「効果的な取り組み」等について研修を行った。

「はがき新聞」のワークショップもしていたが、全職員ではがき新聞を作成した。

⑥職員研修



- ・最初はどこから読めばいいのか分からなかったけれど、今では見出しを見ながら素早く読むことができるようになりました。これからも新聞を読み続けたいです。（2年）
- ・NIEを通して、新聞を読むようになりました。新聞だけでなく他の広報誌なども読むようになり、ニュースについて友達と話すようにもなりました。NIEでさまざまなことを身に付けられてとても良かったです。（3年）

## 4. 1年間の成果と課題

「新聞を身近なものにしよう」を目標に、生徒や教職員が無理をせず、楽しくできる活動に取り組んできた。特に、「朝の新聞タイム」「3分間スピーチ」では、さまざまな記事に興味関心を持ち、自分の考えを書いたり発表したりすることはもちろんのこと、友達の考えを知る楽しさを実感できたことはうれしいことであった。また、学校で読んだ記事を家庭でも共有できたことは大きな成果だと感じた。取り組みの進んでいなかった教職員研修を実施したことも、各学級での新聞活用を後押ししたのかもしれない。

来年度は、本年度の取り組みを継続していきながら、自分の考えをさまざまな人に伝え、意見を交換しながらつながりを広げられるような活動に取り組んでいきたいと考えている。また、新聞紙を使用したバッグ作りのように、多方面で新聞を身近なものとしていきたい。

## 3. NIEに関する生徒の感想

- ・テレビで放送していることよりも詳しく書いていて、一番読んでほしいところもすぐに分かります。家で新聞を取っていないので学校でたくさん読みたいです。（1年）



# 自ら学び、みんなで学び、社会とつながるNIE

大分市立戸次中学校 教諭 油布 和也

## 1. はじめに

本校の学校教育目標は「ふるさとを愛し自ら学び、心豊かで実践力のあるたくましい生徒の育成」である。ここでの「実践力」とは、「社会における実践力」である。私たちはより良い社会の創り手を育成するため、より良い学校教育を行わなければならない。

本校では、生徒と社会をつなぐものとして「新聞」が有用であると考え、NIE実践指定校となった。教員と生徒全員でより良い実践となるよう、初年度の取り組みを行った。

## 2. 取り組みの内容

### (1) 朝のNIEタイム (年間)

活字離れを防ぎ、基礎基本の力をつける、学力保障のための学習活動。

朝学習の時間に『読売ワークシート通信』(読売新聞)を活用し、班で学び合った。

NIEタイムの流れ ①自分で考える  
②班で意見交流 ③全体で意見交流



最新の時事を基に問題が構成されている。分野は多岐にわたり、オープンエンドの発問も多い。



〈生徒の感想〉

- ・家でも新聞を読むようになった。
- ・読解力がつくようになった。

(2) 教科におけるNIE

【国語科】3年 新聞の社説を比較して読む (10月)

各社の論説を読み比べ、主張や論理の展開、表現の仕方の違いについて考える活動を行った。同日の6紙の1面の記事の内容や記事の扱いについても考える活動を行った。

〈生徒の感想〉

- ・1面で取り上げられている内容が、同じ日でも各新聞により違いがあって面白かった。1面の内容が6社とも揃うことはなかなかないことが、NIEコーナーを毎日見ていると分かった。

【美術科】1年 自分の手を描こう

(4~6月)

手のデッサンの背景の材料として新聞を使用した。文字や色、記事をコラージュとして活用することができた。



新聞をちぎって貼り付け、背景を作る。記事や広告の色をうまく利用した作品が生まれた。

〈生徒の感想〉

- ・初めての活動だった。イメージに合った色の記事を探すことができた。

【総合】1・2年 第69回県学校新聞コンクールへの参加（10～11月）

1年生は宿泊体験学習、2年生は修学旅行の思い出を新聞にまとめる活動を行った。2年生は事前学習として大分合同新聞社の佐藤さんに講師として来ていただき、見出しの付け方やレイアウトなどについて教えていただいた。その結果、2年生は「オリジナル新聞部門」で最優秀賞を受賞、1年生は入選することができた。来年度は生徒会が継続的に発行する「学校新聞部門」にも応募したいという声が生徒から上がった。



【国語科、美術科】全学年 「おおいた切り抜き新聞グランプリ」への参加（11～12月）

新聞から気になる記事を集めて台紙に貼り、思ったことや伝えたいことを書き込む活動を行った。戸次中学校は学校賞を受賞することができた。



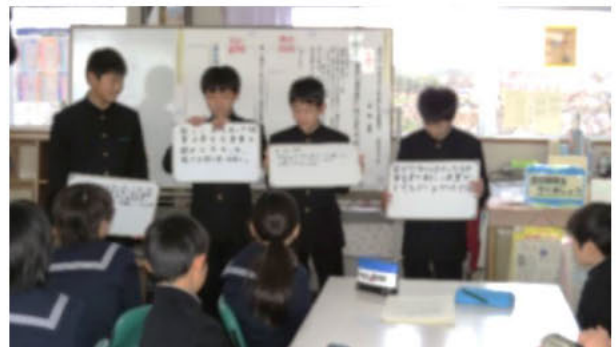
それぞれテーマを決めて新聞を作成した。

【国語科】1年 気になる記事を紹介しよう（1月）

①新聞を読む②記事を決める③記事を読んで考えたことを書く④家族や友だちに意見を聞く⑤意見を聞いて考えたことを書くという活動。国語科の「グループディスカッションをしよう」の単元で行った。



それぞれの記事に疑問や意見を出し合う。



今後は家族に発表して同様の活動を行う。

〈生徒の感想〉

- ・発表するのは緊張したけど、自分の考えを発表できたので良かった。
- ・自分と同じ意見の人もいたが、違う意見の人もいて、その違いが面白かった。
- ・自分の発表に対して友達が真剣に意見を返してくれたことがうれしかった。
- ・友達が興味を持っていることが分かった。
- ・最近のニュースに関心を持つことができた。
- ・友達からの意見や質問を聞いて、あらためて自分の考えをまとめることができた。



【美術科】1～3年 地域講師を招聘しての授業の新聞記事での紹介（9月）

戸次本町の工房から講師の先生に来ていただき、陶芸作品の制作を行った。その際、大分合同新聞社の方に活動を記事にいただいた。反響は大きく、保護者や地域の方から、生徒の頑張っている様子が伝わってきたなど、お褒めの言葉がたくさん寄せられた。

〈生徒の感想〉

自分たちの頑張りを記事にしてもらえて誇らしかった。

〈保護者の方からの感想〉

普段は授業のことについてあまり話す機会がないが、記事の掲載を機会に子どもと話すことができた。頑張っている様子が伝わってきた。これからも継続してほしい。

（3）研修

- ・校内研修でNIEアドバイザーである校長からNIEの基本理念や実践方法について話を聞き、職員で共通理解ができた。（4月）
- ・NIEアドバイザーである佐藤美登里先生を講師に招き、授業実践を全職員で見学した。その後、校内研修で質疑応答を行い、NIE実践への理解を深めた。（11月）

### 3. 環境整備

（1）NIEコーナーの設置

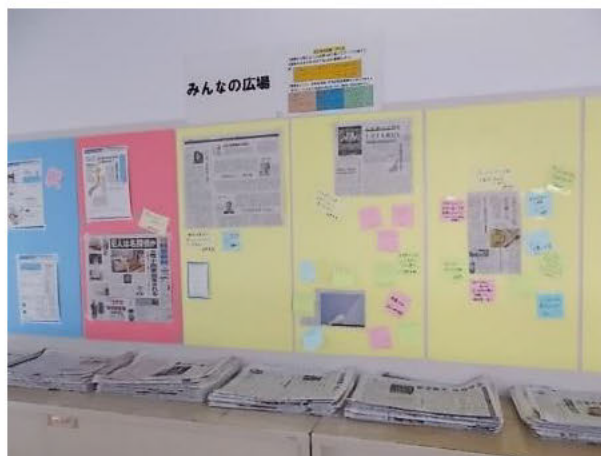


6紙の1面を掲示して、ゆっくり新聞を読むことができるコーナーを設置した。

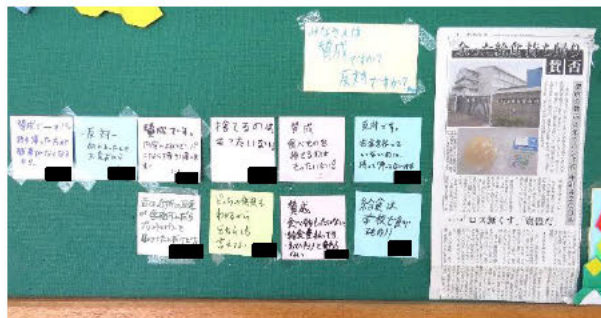
〈生徒の感想〉

貼っている新聞の記事を眺めて、休み時間に友達と話した。今日はどんな記事が1面にあるのか、楽しみにしている。新聞によって1面に違いがあることが分かって面白い。

（2）みんなの広場での意見交流



気になった記事を貼って、付箋に自分の考えや疑問に思うことを書いて添える。それに対して、見た人が付箋に返事を書くという交流活動。





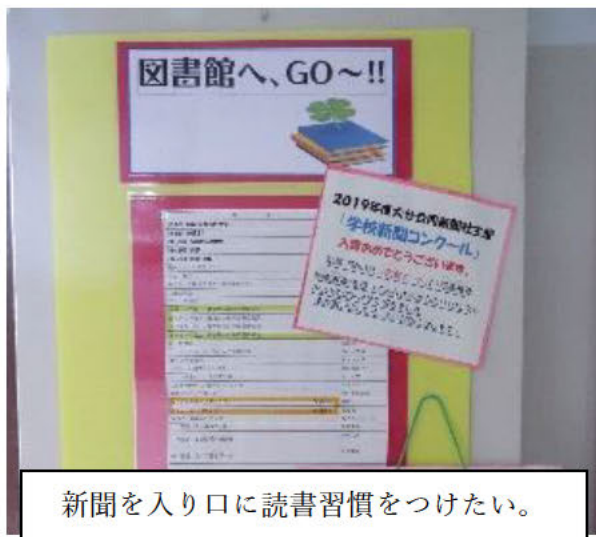


在校生・卒業生の活躍も多数掲示している。

〈生徒の感想〉

- ・世の中の出来事に対して、興味を持つようになった。
- ・意見を書くのは初め恥ずかしかったが、自分の意見に対して、友達がコメントを書いてくれてうれしかった。
- ・英語のワークシートを見るのが楽しみ。簡単な表現を分かりやすく紹介しているので、日常でも使っている。もっとたくさん貼ってほしい。

### (3) 学校図書館の学習・情報センターとしての機能の充実



新聞を入りに読書習慣をつけたい。

朝日中学生新聞の掲示や時事関係の蔵書を充実させ、新聞から図書、図書から新聞へと興味を広げられるように環境整備を行った。

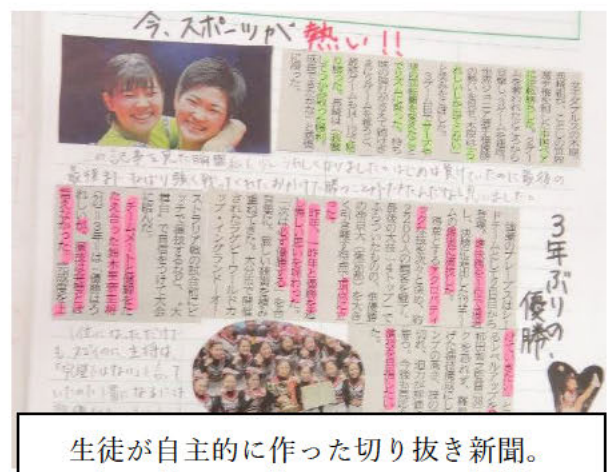
生徒の意見が選書に反映するようにアンケートを取り、調べ学習の資料を充実させた。

### 4. 本年度の成果と来年度の課題

初年度の取り組みを終え、生徒からの感想で一番多かったのが「楽しかった」だった。楽しく学び合うことができるツールとして「新聞」が有用であることを実感できた1年間だった。「みんなの広場」の活動では、各教科の教員や事務の先生も積極的に記事やコメントを貼り、さまざまな記事を通してみんなと交流し、考えを深めることができた。大人でも考え方が違うことや議論の進め方について生徒は学ぶことができたのではないだろうか。

手探りで「楽しそうなものは何でもやろう」を实践姿勢に進めた初年度だったが、一つ活動をするたびに生徒から返ってくる明るい反応が励みになった。

今後はより効果的な活用の仕方を考え、学年や教科の系統的な取り組みを継続して行っていきたい。来年度は今年行った活動を一層良いものにするとともに「クロヌリハイクアート」や「大分合同新聞社読者のページ『僕たち私たちの声』への投稿」など、新しい活動も始め、さらに充実した活動にしたい。



生徒が自主的に作った切り抜き新聞。

# それぞれの立場での取り組み

大分県立別府翔青高等学校 教諭 坂口 智子

## 1. はじめに

本校は、グローバルコミュニケーション科・普通科・商業科の3つの科からなる高校である。

NIEの活動を通して「社会への興味・関心」を養いたいということから、開校当初から朝読書の時間を利用して、毎月2回「朝NIE」を全体での取り組みとして実施してきた。しかし、開校5年目となり、各科の特色を生かした取り組みをしたい、そのためにはこれまでの活動を見直していくことも必要との意見もあり、今年度からは「朝NIE」の取り組みをやめることとなった。

これまで探究学習やそれぞれの教科で取り組んできたことを継続しつつ、どのように活動していくのか、方向を探っている途中である。

## 2. 取り組みの状況

### (1) 「探究NIE」の取り組み

#### 1年（GC・普通科）2学期

スピーチコンテストへの取り組み  
ねらい（GC科）

- ① 自分が興味関心を持つ分野において、社会が抱える問題に目を向けさせ、進路意識を高める。
- ② 地域や国、国際社会に深く関心を持ち、知識を深め、社会問題に対して意見を持つきっかけとする。

ねらい（普通科）

- ① 書かれている情報を読み取り、分析や考察ができる力を身に付けさせる。
- ② スピーチを通して、自分の考えを的確に分かりやすく表現する力を育成する。

新聞の切り抜き速報等から生徒自身が関心を持った記事を選び、原稿を起こし、記事の紹介や自分の感想などを発表した。

#### 2年（商業科）1学期

スピーチコンテストへの取り組み  
ねらい

- ① 新聞記事の特徴を理解することができる。
- ② 興味のある記事を探し、分析するための方法を理解することができる。

なお、修学旅行に向けて、新聞で沖縄に関する記事を選んでまとめる予定（昨年度は実施）だったが、十分な時間の確保ができず、本とインターネットの活用のみになった。

#### 2年（普通科）3学期

個人研究のプレステップ  
ねらい

- ① 生徒が研究したことを活かして小論文・面接・志望理由書に役立て、自らの進路について考えさせる。
- ② 切り抜き速報や、新聞やニュースを積極的に見ることで生徒個人の興味関心のあるテーマ（仮）を設定させる。

#### 3年（普通科）1学期

2年時のプレステップを受け、生徒自身の進路を踏まえた上で、本テーマを設定、書籍やインターネット、新聞を用いて情報収集し、個人研究を進める。2学期に各クラスで個人研究発表会。

1年と3年については、2月の探究学習全体発表会で代表が発表する予定である。







生物で使用した記事



てすぐの所に新聞を配架し、生徒が手に取りやすいようにしている。これまでは棚の中に置かれていたため、新聞があることに気付かなかったという生徒もおり、以前より新聞を手に取りやすくなった。また、後期からは、もともと学校で取っている新聞の古い日付のものを、図書館に置かせてもらうことにし、入口の外側にも配架するなど、より多くの種類の新聞に生徒が触れることができるようにしている。

## (2) 新聞閲覧コーナー



新聞閲覧コーナーに3日分の新聞を並べて配架している。後ろ側の掲示板の右側には、その日のトップ記事をコピーして掲示。中央部には、図書委員の選んだ記事とコメントを掲示。左側は図書館のインフォメーションのコーナーとして、特集記事と関連の図書を合わせて紹介することもあった。今年度は、「ノーベル化学賞受賞」・「消費税増税」・「ラグビーワールドカップ」などを取り上げた。この新聞閲覧コーナーは、図書館と普通教

## 3. 環境整備

### (1) 図書館



本年度から図書館活動の中にNIEが位置付けられ、図書館でも新聞へ生徒の興味を引き付ける工夫を行っている。入口にホワイトボードを置き、「今週の新聞記事」として曜日ごとの主な見出しを書き出した。入室し



室棟をつなぐ渡り廊下の一部分を利用している。生徒がよく通り掛かる場所ではあるものの、普段は暗く「読む」ことに適した環境とは言い難い。実際、配架している新聞を読んだり、掲示している記事を読んでいる生徒の姿は、ほとんど見受けられなかった。ただ、昼休みなどで係が作業しているところに通り掛かった生徒が、「何をしているのか」と話し掛けてきたり、のぞき込んだりしていくことはあった。また、小論文や面接の練習の時期に、「最近の新聞が欲しい」ということで、この場所の新聞を利用する生徒がいたらしい。

配架を終えた新聞については、「探究学習などで新聞記事を必要とする際は利用して下さい」という呼び掛けもしてみたが、利用はほとんどなかったようである。

#### 4. 課題その他

##### (1) 時間

記事を選ばせるという計画はあるものの、新聞から直接探すということになると非常に時間がかかる。多くの情報からどれを選んでいいのか分からなくなり、すぐに飽きる生徒もいる。限られた授業時間の中では、あらかじめテーマの絞られた『切り抜き速報』や、インターネットに頼ってしまいがちだ。とにかく新聞を手にとってめくっていく中で思わぬ発見があるというのが効用の一つなのだろうが、そのような余裕がないというのが現実でもある。

探究学習や各教科の取り組みでも進度に追われて以前のようなきっちりした計画では進められず、結局、実施できないケースも出てきている。

放課後の活動も、各種行事や検定のための補習、部活動など、今回、図書委員に担当させてみて、いつさせるのかという難しさをあらためて感じた。

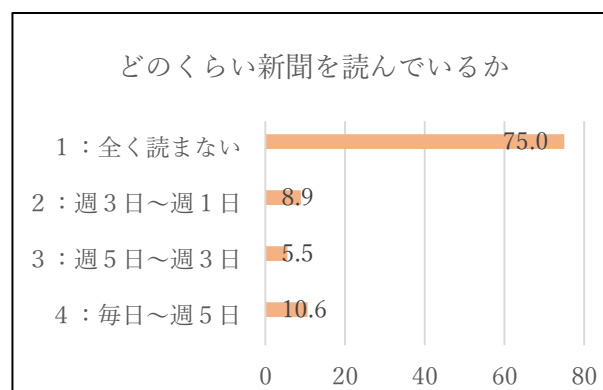
##### (2) 連絡不足

生徒が選んだ記事を掲示していること、配架済みの新聞を利用してもいいことなど、十分な連絡が生徒に行き渡っていなかった。調査やアンケートの類を本年度は行っていないが、どんな利用の仕方があるのか、何を必要としているのか、意見を聞く機会もあると良かったのかと思っている。

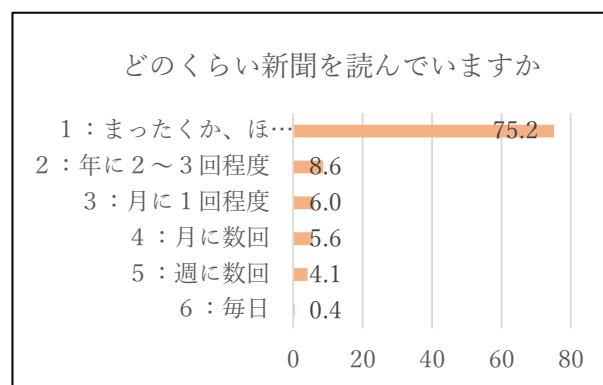
##### (3) 新聞への意識

図書館の「読書習慣に関する調査」から、新聞についての項目を引用する

#### 1学期末 生徒アンケート【7/9 集計結果】 全校生徒対象



#### 3学期初め 生徒アンケート【1/30 集計結果】 1年生対象



授業で扱う以外には、自分から新聞を読むことはない様子が見えてくる。まずは、手に取りやすい環境をどう作っていくか、新聞への興味をどのようにして持たせていくのか考えていく必要がある。

# 新聞から社会を学ぶ 人格設計

～社会で生きていくための表現力向上を目指して～

別府溝部学園高等学校 教諭 矢野 慎治

## 1. はじめに

本校ではN I E実践指定校として、3年目を迎えている。しかし、担当の私は前任の方より引継ぎでN I E担当になり、当初手探りの状態だった。そこで最初の授業では生徒にアンケートを取り、生徒の新聞に対する意欲と知識、そして読解力、表現力を分析し、授業内容を決めることにした。その結果、「社会で生きていくための能力を育む授業」を展開する方針でこの1年間活動を行ってきた。1学期までは1、2年生の総合学習N I Eエリア選択者のみを対象として授業を展開してきた。2学期からは熟練度別に授業の取り組みを変える前提で3年生の進学コースにも導入し、表現力の向上を図る取り組みを行った。

## 2. 年間の授業概要

- 1) 新聞の構造についての講義
- 2) はがき新聞
- 3) ワークシート学習
- 4) 新聞作文
- 5) 基礎国語表現学習
- 6) 出前授業
- 7) 4コマ漫画学習
- 8) 新聞作成

生徒に掲げる言葉

表現力を身につけるためには・・・  
読解力が必要である。  
読解力を身につけるためには・・・  
文章を読まなければならない。  
**新聞を読もう！**（読めるようになろう）

## 3. 実践内容

<1学期の取り組み>

### 1) 新聞の構造についての講義（3時間）

【1、2年生総合学習N I Eエリア選択者】  
生徒の実態を調査するため、事前にアンケートを行った。主に新聞に対する理解と関心を確認するためのもので、以下がその内容と結果である。アンケートを実施した後、以下①～③の内容で授業展開した。N I E選択者は13人。

《アンケート内容と結果》

- ・「新聞を読んだことがあるか」  
ある7人、ない6人
- ・「どのくらいの頻度で読むか」  
月1～3回くらい6人、毎日1人
- ・「どんな記事を読むか」  
アニメなど、大きな出来事、TV欄、社会面、ニュース系、4コマ漫画
- ・「家庭で新聞を購入しているか」  
はい3人、いいえ7人、分からない3人
- ・「新聞を読むことは大切か」  
はい9人、いいえ0人、分からない4人
- ・「新聞は難しいものだと思うか」  
はい6人、いいえ3人、分からない4人
- ・「N I Eの授業で何を学びたいか」  
新聞の構造や作り方、読み方、楽しみ方、新聞が完成するまでの工程、記事の書き方

[アンケート結果の所感]

総合学習の選択制ということで少人数による集計となったが、私としては想定通りの結果になった。特に注目すべき項目は「家庭で新聞を



購入しているか」である。現代ではスマートフォンの普及により大人も新聞離れがあるように見受けられる。また「新聞を読むことは大切である」と思っている生徒はほとんどで、身近に新聞を読む環境がないことが生徒の自発的学習の妨げになってしまっているのが現状である。

①NIEとは？

～新聞を導入した授業で何を学ぶのか～

②新聞とは？

～歴史的視点から考える～

③新聞のルール

～基礎となる構造とその効果を知ろう～

2) はがき新聞の作成 (5時間)

**【1、2年生総合学習NIEエリア選択者】**

講義で学習した内容を理解しているかを確認するとともに、体現して新聞作成の基礎を学ぶこと、作成する楽しさを実感させることを狙いとした。総合学習の選択者で初対面や生徒間に接点がない者がいることから、自己紹介を題材とした、はがき新聞の作成を導入した。

①はがき新聞とは？

～新聞の構造を用いた演習～

②自己紹介文を書く

(準備プリントで自身の分析と素材集め)

- ・自身が公開してもよい情報を書く

(あだ名、誕生日、血液型、身長、体重等)

- ・自身の性格を客観的に考えてみる
- ・特技、趣味、自慢できること
- ・学校での目標、将来の夢を語る

③準備プリントを活用して下書き

(はがき新聞の原稿用紙を基に)

④工夫してみよう

(見やすさ、丁寧な字、ランキング化、グラフ化、色を用いた視覚効果)

⑤本紙作成

[所感]

はがき新聞を作成した後、NIEエリアで講習会を行った。生徒一人一人が個性ある作品を作っていて大変勉強になる会であった。しかし、文字が読みづらい点と文章能力が乏しい点から、良い内容であるが有効に発揮されていないところが残念だった。以降の授業で文字を丁寧に書くことと文章能力の向上を図るための学習が必要である。

3) ワークシートを活用した読解力、文章力の向上を図る学習 (4時間)

**【1、2年生総合学習NIEエリア選択者】**

はがき新聞の作品の結果を踏まえて、新聞の記事を活用して読解力と文章力の向上を目的とした授業展開を行った。まだ新聞を読むことに難しいと感じている生徒が多いことから段階を踏むことを考え、私の方で選定した内容が易しい記事の中で5W1Hを探すクイズ形式から、生徒各自に新聞1部から記事を選択させて、その記事の感想を書かせる自己学習へと展開させてみた。

①記事を使った学習

～5W1Hを探そう～

②記事を使った学習

～記事を選んで感想を書いてみよう～

[所感]

5W1Hを探すクイズは生徒も意欲的に取り組むことができていたが、記事を選択させて感想を書かせる学習では、読解力が乏しい点が目立ち、記事を選択する段階で時間がかかってしまい感想を書くまでに至らなかった生徒がいた。また、ある程度感想を書くことができた生徒についても記事の引用がほとんどで一言の感想で終わってしまっている者が多くいた。

<2学期の取り組み>

#### 4) 新聞記事を利用した作文作成

【1、2年生総合学習N I Eエリア選択者】

夏休み明けに夏休みの思い出を語る作文を原稿用紙1枚に書く。(2時間)

〔所感〕

新聞記事を読ませ、夏休みの出来事を振り返りながら各自の思い出を書かせた。内容としては8月に「あおり運転事件」が大きく話題になっていたこともあり、その記事のことを入つつ自分自身の夏休みの思い出を書く生徒が多かった。主に映画、旅行、補習日記を書く生徒がほとんどである。原稿用紙の書き方と文章表現について全員を添削して、よく間違いやすい点を授業で指導した。

【3年生普通科進学コース 実用国語】

新聞記事を読んで、その記事の要約を100文字でまとめ、感想、問題提起、解決策などを300文字以内で書く学習を行った。(4時間)

〔所感〕

入試の小論文対策を踏まえた読解力、文章表現力の向上を図る学習として導入した。日頃から原稿用紙の基礎確認や文章の書き方、小論文学習、小論文模試を実施しているので難無く取り組むことができていた。今回は原稿用紙1枚での学習になったが、文字数を増やしての実施も入試の形式に沿って効果的になるのではないかと考えた。

#### 5) 基礎国語表現学習 (4時間)

【1、2年生総合学習N I Eエリア選択者】

作文を添削すると文章表現力が乏しいと感じられたので今後新聞を作るために必要なスキルを事前に身に付けることが必要であると考え、基礎的な国語表現を学習する授業を追加で取り

入れた。(助詞の使い方。主語、述語の対応。敬語表現など)

〔所感〕

ほとんど国語の授業になっていたが、今後の新聞作成には必要な準備として学習を行った。学習プリントを用いて自己学習をさせたが、やはり国語表現ができていないようである。

#### 6) 出前授業 (各コース1時間ずつ)

【1、2年生総合学習N I Eエリア選択者】

【3年生普通科進学コース 実用国語】

大分合同新聞社の井上明氏を講師に招き出前授業を行う。(新聞の作り方、構造、読み方等)

《出前授業の様子》



〔所感〕

新聞の読み方が分からない生徒が多い中、このような出前授業を行ったことは生徒にとって良い影響を与えたのではないかとと思う。

### 【3年生普通科進学コース 実用国語】

『おおいた切り抜き新聞グランプリ』に応募  
(25人 5グループ) (3時間)

#### 7) 4コマ漫画学習 (6時間)

##### 【1、2年生総合学習NIEエリア選択者】

4コマ漫画を使って表現力と創造力の向上を図る。起承転結を意識させ以下の項目を行った。

- ・ 4コマ漫画の序列を考える  
4コマ漫画パズル
- ・ 4コマ目 (結) を考える  
1～3コマから想定できる4コマ目を作る
- ・ 1コマ目から展開しよう  
1コマ目を参考に2～4コマ目を考える

#### 《最優秀生徒作品》

以下の作品は「1コマ目から展開しよう」の学習項目で、生徒は2～4コマ目を描いている。絵が上手いことも高い評価を得ているが、あえて言葉を使わず、絵のみで表現していることが選考材料となった。この作品の他にも個性的な作品が多くあり、起承転結を意識する学習として有意義であったと思う。

■1コマ目の絵と内容から想像を膨らませて、4コマ漫画を描こう。



〔所感〕

漫画は生徒にとって親しみ深いもので、意欲的に取り組んでいた。表現力向上に励んだ。

<3学期と今後の取り組み>

#### 8) 新聞作成 (6時間) (実施中)

##### 【1、2年生総合学習NIEエリア選択者】

これまでの学習を活かして4人グループを組み、A2判の用紙に新聞を作るという流れを考えている。現在は題材決定と情報収集をし、下書き用紙に全体の構成を書き入れている段階。

〔所感〕

コロナウイルスの件で休校になり、総まとめである新聞作成が途中で終わってしまったことは残念である。機会があれば新聞を完成させ、校内での掲示をしたいと考えている。

#### 4. 環境整備、授業での工夫点

NIEコーナーの設置。誰でも新聞を読めるスペースを設けている。長机を設置して、その場で読みやすくしている。

授業では「かたい新聞 (固い、堅い、難しい)」からの脱却を試みて、新聞の記事から日常生活になぞらえた内容と、学生に親しみのある漫画を題材にした4コマ漫画を取り入れ、生徒の興味、関心をつかむ内容を心掛けた。

#### 5. 実践成果と課題

この1年間NIEの授業を行ってきて、当初「新聞は難しく、大人しか読めないもの」と考えている生徒がほとんどであった。現在では新聞を読むことにそれぞれの楽しみ方を持って読むことができている。読解に関しては大変有意義な授業になった。まだ現段階で新聞作成を終わっていないので判断はできないが、作文や新聞記事の感想文を見ると文章表現力の面では今回以上に指導が必要であると実感した。



# 新聞を通して考える 社会と自分

～新聞を進路目標設定（進路学習）に生かす方法を探る・2年目～

大分県立大分舞鶴高等学校 教諭 小坂 史香

## 1. はじめに

試行調査を踏まえ、大学入試共通テストの国語において、実用的な文章や複数テキストを読み込ませるものが入ることが予想される。それに対応するためにさまざまな取り組みが考えられるが、多方面にわたる分野の各種記事が掲載されている新聞に日々目を通すことも、有効な対策の一つとなり得ると考えられる。

昨年1年間、実践指定を頂き、68回生に対して国語科を中心にNIEに取り組んできた。多少なりとも授業などを通じて、新聞に触れ、微々たるものであっても「力がついてきた」と実感しつつある生徒たち。彼らに対し、本年度も実践を継承・発展させ、さらに力を伸ばすための種まきをしたいと考えた。

### 【実践の目標】

- 1 新聞を通し、生徒の社会への関心、読解力、思考・判断、表現する力を養成する。
- 2 生徒が自発的に新聞を調べ、進路目標の設定及び達成に資するものとする。
- 3 学年、複数教科、図書館等の連携の取れた組織体制を構築する。

## 2. 実践計画・実践状況

通年	(1) NIEコーナーの設置 (2) 新聞社発行のワークシートの活用
授業	(3) 記事紹介スピーチ&聞き取り (4) 新聞記事を活用した学習活動 等
随時	(5) 「いっしょに読もう！新聞コンクール」等への応募 ・意見文の投書

### (1) NIEコーナーの設置

場所は、中央階段踊り場に確保。

- ①6紙の1面（平日の朝、コピーまたは新聞の無償提供がある間はそれらを掲示）
- ②生徒の活動が載った記事の切り抜き「舞鶴魂の体現」
- ③※コラムの比べ読みプリント
- ④新聞を読むことの効用を扱った記事等。

①～③を常時、④を不定期で掲示している。



(新聞の無償提供は10月～翌年1月で依頼)

※コラム読み比べ（B4サイズ、読売・毎日・朝日・西日本・大分合同）



本年度は裏面も活用し、知識を得られたり、ものの見方・考え方を広げられたりするような、原則その日の記事を紹介している。

[裏面「いちからわかる!」「なるほどリ」。休止の場合はその他、読ませたい記事]



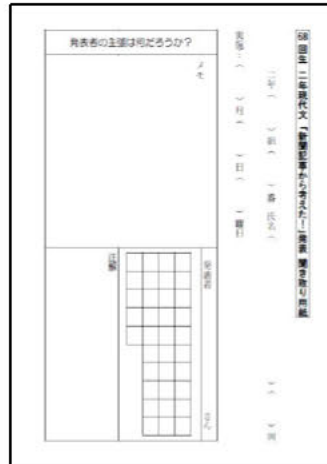
(2) 新聞社発行のワークシートの活用

2学年全体で、小論文学習の一環として週1回、取り組む。裏面には参考となる社説を中心とした新聞記事を事前に印刷。生徒が自己添削して提出→担任・副担任がチェックして返却する。



(3) 記事紹介

現代文の授業時、クラスメートに紹介したい記事を選び、発表する(1分間スピーチ)。その際、意見を級友が聞き取れているか、チェックする(話す・聞く・書く)。切り抜きを貼ったワークシートは教室内に掲示する。



[聞き取り用紙]



[集計用紙]

(4) 2年1組国語表現

- ①「先生方の『高校生の頃』をインタビュー～『ひと』欄に学び、文章にまとめよう～」(1学期実施)

《学習活動》

「ひと」欄の特徴を知り、先生方へのインタビュー内容を文章にまとめる。文集を作成する。

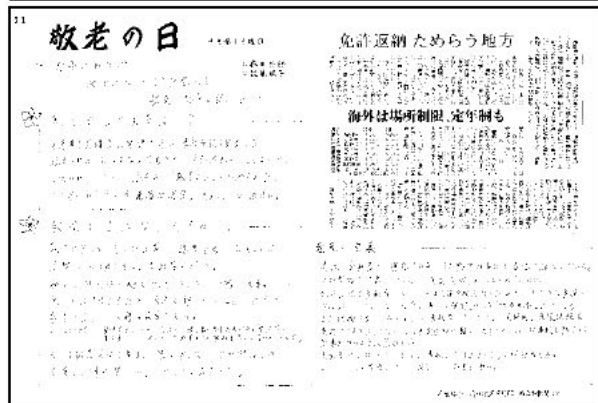




②「君は『国民の祝日』を知っているか～分かりやすくまとめ、社会の諸問題とのつながりを考えよう～」(1学期実施)

《学習活動》

国民の祝日について調べ、そのテーマに関係する社会的問題を扱った新聞記事とともに紹介する。



③クロナリ俳句 (1学期実施)

《学習活動》

新聞の入選短歌・俳句を活用し、自分自身の俳句を作る。それに見合うイラストをクロナリで残し、添える。



④「現代文『戦争の不可能性』とコラボレーション～各種戦争の解説新聞を作ろう～」(2学期実施)

《学習活動》

現代文の教科書に採録された評論「戦争の不可能性」に言及されている戦争について調べ、新聞を作成する。



⑤「君たちはニュースキャスター～新聞の1面記事を解説しよう～」(2学期実施)

《学習活動》

新聞の1面記事について調べ、解説するプレゼンテーションを行う。

	見出し	日付 新聞名
1	年金、68歳まで働く必要	2019年8月28日水曜日 日本経済新聞
2	男性育休 遠い目標	2019年9月8日日曜日 大分合同新聞
3	県内の韓国人客67%減	2019年9月19日水曜日 大分合同新聞
4	温室ガス削減 鈍い主要国	2019年9月25日水曜日 朝日新聞
5	兄が妹が…引きこもり	2019年9月25日水曜日 西日本新聞
6	日米貿易 最終合意	2019年9月27日金曜日 毎日新聞
7	個人データ規制に賛成	2019年9月28日土曜日 日本経済新聞
8	消費税10%	2019年10月1日火曜日 朝日新聞



(5) 各種コンクールへの応募

①いっしょに読もう！新聞コンクール

→全国最優秀賞1人、全国奨励賞2人、大分県NIE推進協議会賞1人



(2019年11月26日火曜日 大分合同新聞)

②おおい切り抜き新聞グランプリ

→最優秀賞1人、優秀3人、学校賞

2年生全員に対し、①は夏季休業中課題、②は冬季休業中課題として取り寄せた。簡単な事前説明のみで、実際に練習でやってみるといふ時間的な余裕はなかった。出来上がった作品には、生徒個人の取り組みに対する温度差を感じたが、おおむね、短期間でありながらもよく取り組んだと考えている。中でも、入賞する生徒もおり、本校生徒のポテンシャルの高さをあらためて感じた。

3. 成果と課題

【成果】

新聞に関するアンケート			割合
問3	これまでの新聞を活用した授業で多少なりともできるようになったと思えることは、何ですか。(複数回答可)	1 時事問題を知る	86%
		2 語彙力が身につく	18%
		3 文章を読むのが早くなる	6%
		4 文章を分かりやすく書く	36%
		5 情報を選択する	54%
		6 情報を活用する	25%
		7 より深く思考する	36%
		8 自他の違いが分かる	23%
		9 視野が広がる	42%
		10 他者の話を聞き取る	68%
		11 その他	2%
		12 なし	2%

(2019年10月実施 舞鶴68回生2年次)

2019年2月に実施したアンケート結果と比較すると、

- 1 「時事問題を知る」 +14%
- 4 「文章を分かりやすく書く」 +18%
- 5 「情報を選択する」 +14%

新たに追加した項目10「他者の話を聞き取る」ということができるようになったと自覚する生徒は68%である。以上の結果は、(3)「記事紹介スピーチ」及び「聞き取る」という活動を継続したためと考えられる。

また、教科書を用いた「通常の授業」とは違った授業を期待していることも分かった。

問4	新聞を活用した授業を行う上で、これから力を入れてほしいと望むことは何ですか。(複数回答可)	1 話す力	64%
		2 聞く力	42%
		3 読む力	41%
		4 書く力	46%
		5 知識	46%
		6 その他	0%
		7 しないでほしい	0%

【課題】

- ①実践目標2に関する生徒個々人の意識差の大きさを克服できていない。
- ②複数の(できればすべての)クラスにおける、新聞を活用した、多様な授業の実施。
- ③新聞を活用した教材・授業案の開発。

## 2019 年度大分県N I E 実践指定校

校種	学 校	学 校 長	実践代表者	指 定 年 度
小学校	中津市立山口小学校	園田 貴史	中嶋 瑞貴	2016
	大分市立鶴崎小学校	田中 紀久美	高橋 園恵	2014
中学校	竹田市立緑ヶ丘中学校	河野 義文	佐藤 美登里	2017
	日田市立戸山中学校	森山 智紀	笹倉 直子	2019
	大分市立戸次中学校	佐藤 由美子	油布 和也	2019
高校	大分県立別府翔青高等学校	阿南 典久	坂口 智子	2015
	別府溝部学園高等学校	佐藤 清信	矢野 慎治	2017
	大分県立大分舞鶴高等学校	大久保 和弘	小坂 吏香	2015

## 2019 年度の活動

4/13	第 78 回N I E 実践研究会	9/14	第 83 回N I E 実践研究会
1 学期 ～夏休み	第 10 回「いっしょに読もう！新聞 コンクール」	10/9	県N I E セミナー (大分市・戸次中学校)
5/11	第 79 回N I E 実践研究会	10/12	第 84 回N I E 実践研究会
5/30	県N I E 推進協議会総会	11/9	第 85 回N I E 実践研究会 (N I E 子ども会議)
6 月～	第 69 回「県学校新聞コンクール」 募集開始	11/13	第 69 回「県学校新聞コンクール」 出品締め切り
6/8	第 80 回N I E 実践研究会	12/14	第 86 回N I E 実践研究会
7/13	第 81 回N I E 実践研究会	12/16	第 69 回「県学校新聞コンクール」 表彰式
8/1・2	N I E 全国大会宇都宮大会	1/11	第 87 回N I E 実践研究会
8/17	第 82 回N I E 実践研究会 (熊本市＝4 県合同研修)	2/20	県N I E 実践報告会
8/22	県N I E 懇談会	2/22	第 88 回N I E 実践研究会 (中津市・新中津市学校)

## ■大分市戸次中で「N I Eセミナー」

授業や教育活動での新聞活用について学ぶ大分県N I Eセミナーを、本年度は10月9日に大分市立戸次中学校で開催しました（写真右）。本年度から実践指定校となった同校の希望で、他校のN I Eアドバイザーが“訪問授業”を行うという初めての形で実施。竹田市立緑ヶ丘中学校の佐藤美登里教諭が、全国紙や地方紙の1面コラムを読み解く公開授業を2年生のクラスで実施。研究討議では津久見市立第一中学校の永松芳恵教頭が「はがき新聞」の取り組みを紹介しました。



## ■活発な活動続けたN I E実践研究会

教員の自主研究組織「大分県N I E実践研究会」は本年度も活発な活動を続けました。8月には大分、熊本、宮崎、鹿児島4県の「N I E合同研修」を実施。11月には「第4回N I E子ども会議」（写真下）を、20年2月には昨年が続いて中津市で研究会を開催しました。

8月17日に熊本市の熊本日日新聞社であった合同研修には、本県からN I Eアドバイザーの教員4人が参加。新聞活用の事例報告やワークショップで交流しました。

本年度の子ども会議は11月9日に大分市の大分合同新聞社で開催。県内の小中学生と高校生4人が登壇し、N I Eアドバイザーの平山立哉・大分市立坂ノ市小学校教頭の司会で意見交換。「新聞の良さをもっと友達に伝えたい」、「新聞を読むことで自分の



考えをしっかりと言える大人になりたい」などの意見が出ました。

2月22日の第88回研究会は中津市の新中津市学校で開催。約50人が参加。愛知教育大学の鈴木健二教授が「新聞と授業づくり」のテーマで講演。切り抜き新聞作りのワークショップには小中学校の児童生徒も参加。楽しく充実した会となりました。



## 大分県N I E推進協議会 会則

- 第1条（名称） 本会は、大分県N I E推進協議会と称する。
- 第2条（目的） 本会は教育界と新聞界が協力し、新聞を生きた教材として活用するための研究と実践を通して教育内容を豊かにするとともに、情報化社会における情報活用能力を高めて、幅広い人間形成に役立たせることを目的とする。
- 第3条（事業） 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。  
○N I E実践指定校・実践者を選定し、日本新聞協会に推薦  
○N I E実践指定校・実践者の支援、助成  
○N I Eに関する研究会の開催、実践報告書の作成  
○N I Eに関する普及、啓発活動  
○その他、本会の目的達成上必要と認めた事項
- 第4条（会員） 本会は本会の目的に賛同する次に掲げる者で構成する。  
○大分県教育委員会、大分市教育委員会、大分県立学校長協会、大分県中学校長会、大分県小学校長会、大分県私立中学高等学校協会の各代表  
○N I E実践指定校の代表  
○大分県報道責任者会加盟の新聞・通信8社（朝日、大分合同、共同通信、時事通信、西日本、日経、毎日、読売）の各代表  
○その他、本会で必要と認める団体・個人
- 第5条（顧問） 本会に顧問を置くことができる。顧問は本会の目的達成のため助言をする。
- 第6条（役員） 本会は次の役員を置き、総会において会員の中から互選する。  
○会長 1人  
○副会長 若干名  
○委員 若干名  
○監査 2人

役員の仕事は次の通りとする。

○会長は本会を代表し、会務を総括する

○副会長は会長を補佐し、会長が欠けたときは職務を代行する

○委員は会務を処理する

○監査は会計を監査する

役員の仕事は1年とし、再任を妨げない。

第7条（総会）

本会は年1回定期総会を開く。

○総会は会長が招集し議長となり、事業計画、運営に関することを決定する

○その他会長または会員の多数が必要と認めた時に、臨時総会を開くことができる

第8条（委員会）

委員は必要に応じ委員会を開く。委員会は事業計画の遂行に必要な事項を協議、決定する。

第9条（経費）

本会の運営に関する経費は、加盟する新聞・通信社の会費および個人・団体からの補助金、その他の収入を充てる。会費は新聞社が年額8万円、通信社が4万円とする。

第10条（事務局）

本会の事務局を大分合同新聞社内に置く。

第11条（実践研究会）

NIE推進のためのワーキンググループとして小中学校、高校、特別支援学校の教員等による大分県NIE実践研究会を置く。

第12条（事業年度）

本会の事業年度は毎年4月1日から、翌年3月31日までとする。

第13条（補則）

この会則に定めるもののほか、本会に必要な事項は別に定める。

付則

本会則は2010年6月4日から実施する。

改定

2013年6月11日

2015年6月22日

## 2019年度大分県N I E推進協議会役員等

＜顧問＞	工藤 利明	大分県教育長
	三浦 享二	大分市教育長
＜会長＞	堀 泰樹	大分大学名誉教授
＜副会長＞	永楽 仁八	大分県立三重総合高等学校長（大分県立学校長協会代表）
	佐藤由美子	大分市立戸次中学校長（大分県中学校長会代表）
	兼子 能昭	大分市立長浜小学校長（大分県小学校長会長）
	小山 康直	大分中学校・大分高等学校長（大分県私立中学高等学校協会会長）
	田中紀久美	大分市立鶴崎小学校長（実践指定校代表）
	小田圭之介	大分合同新聞社執行役員編集局長（新聞・通信社代表）
＜委員＞	久保田圭二	大分県教育庁高校教育課長
	内海真理子	大分県教育庁義務教育課長
	野田 秀一	大分市教育委員会学校教育課長
	原田 克美	西日本新聞社大分総局長
	奈良部光則	日本経済新聞社大分支局長
	木下 武	毎日新聞社大分支局長
	掃本 直行	読売新聞社大分支局長
	石神 和美	朝日新聞社大分総局長
	山本 浩司	共同通信社大分支局長（監査）
	坂本 浩一	時事通信社大分支局長（監査）

---

### ＜N I Eアドバイザー＞

佐藤由美子	大分市立戸次中学校長
塩川 美紀	元日田市立若宮小学校元教諭
平山 立哉	大分市立坂ノ市小学校教頭
安東 浩子	豊後高田市立田染中学校教頭
永松 芳恵	津久見市立第一中学校教頭
佐藤美登里	竹田市立緑ヶ丘中学校教諭
小坂 吏香	大分県立大分舞鶴高等学校教諭
田邊 玲子	大分県教育センター教科研修部指導主事
佐田 香織	大分県教育庁義務教育課指導主事

＜事務局＞	事務局長	白倉 純	大分合同新聞社地域コミュニケーション局地域連携室長
	同次長	井上 明	〃 地域連携室シニアマネージャー
	同次長	佐藤 一郎	〃 編集局報道部編集委員
	事務局員	萱嶋 悠	〃 地域連携室
	〃	田口 麻加	〃 地域連携室
	〃	河野 幸	〃 地域連携室



＜発行＞2020年4月

大分県NIE推進協議会事務局

〒870-8605 大分市府内町3-9-15(大分合同新聞社地域連携室内)

☎097-538-9729 fax097-538-9810 ✉nie@oita-press.co.jp